

高等学校 国語科 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 場 所 HR 教室
3. 学年・組 第2学年〇組
4. 科目名・単元名 文学国語・「登場人物の心情を読み取る」(読むこと)
5. 題材名 中島敦『山月記』(使用図書は、教科書：〇〇〇〇)
6. 単元の目標

(1) 【知識及び技能】

文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。

(2) 【思考力、判断力、表現力等】

語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができる。

設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。

(3) 【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

7. 教材観

『山月記』は、中国の古典文学である『人虎伝』を題材にして書かれた漢文訓読調の小説である。冒頭部分を中心にやや難解な語句や表現が用いられているが、文章の展開は明快で、主人公である李徴の内面が詳しく表現されているため、描写を手掛かりに主人公の心情の変化を捉えたり、表現の効果を考えたりすることに適している。また、本文中に示されている主人公の様々な苦悩は、読者にも通ずるものがあると考えられるため、生徒たちが「自分ごと」としてとらえ、題材に関する問いに対して、主体的に関わろうとする姿を期待できる。

8. 生徒観

(省略)

9. 指導観

特に前半部分は、冒頭部分を中心にやや難解な語句や表現が用いられているので、まずは本文の読解に集中させ、文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について丁寧に教えたい。また、李徴の内面が詳しく語られている場面では、描写を手掛かりに李徴の心情を読み取るとともに、題材に関する問いに対して自身の考えを持てるようになるために、本文中では述べられていないことを想像したり、典拠である『人虎伝』と比較したりするなどの言語活動を行う。さらに、この作品の主題について考えを深めるために、グループで意見を交流させる。

10. 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。	- 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 『人虎伝』と比較して、それぞれの特徴を分析したうえで、『山月記』の主題を考察している。	- 各グループにおいて自分たちの考えを共有するなかで、他者の考えを自分なりに分析したうえで、『山月記』の主題について自身の見解を述べようとしている。 - 本文中の「月」が描写されている部分に着目し、それぞれの表現の効果の違いを分析したうえで、自身の見解を述べようとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

11. 単元の指導と評価の計画（全 9 時間）

時	学習活動	評価の観点			評価規準【観点】 （評価方法等）
		a	b	c	
第 1 時	・「変身」と聞いて思い浮かぶものについて考える。 ・作者である中島敦の経歴や作品の特徴について知る。 ・「山月記」の文章の特徴について考える。		●		・「変身」と聞いて思い浮かぶものと、それが変身する理由について考えている。 【b】（観察、ワークシート）
第 2 時	・第一段を読解する。 ・主人公である李徴の過去について、本文中で述べられている内容を読み取る。 ・李徴がなぜ発狂したのかを考える。		●		・主人公である李徴について、本文中で述べられている内容を読み取り、李徴が発狂した理由について考えている。 【b】（観察、ワークシート）
第 3 時	・第二段を読解する。 ・本文中で述べられている内容をもとにして、袁傜の人物像とともに、袁傜がとった行動の理由について考える。	●			・袁傜の人物像と袁傜がとった行動の理由について理解している。 【a】（観察、ワークシート）
第 4 時	・第三段を読解する。 ・「『おそれる』、『おそろしい』という言葉が用いられている部分には、どのような特徴があり、それぞれ李徴は何に対してそのような感情を抱いているのか」ということについて考える。		●		・「おそれる」、「おそろしい」という表現の使われ方について、それぞれの特徴を考えている。 【b】（観察、ワークシート）
第 5 時	・第三段における李徴の一人称の使い分けに注目する。 ・「李徴が虎になった原因」と、「なぜ、変身した動物が虎であったのか」ということについて、グループで意見を共有し、自分たちの考えをグループごとに発表する。		○		・李徴が虎になった原因と、「なぜ、変身した動物が虎であったのか」ということについて、自分の考えを形成している。 【b】（観察、ワークシート）
第 6 時	・第四段及び第五段を読解する。 ・李徴の書いた詩の内容を理解する。	●			・李徴の作った詩について、本文中で述べられている内容を理解している。 【a】（観察、ワークシート）
第 7 時 （本時）	・第五段における李徴の心情に注目し、『人虎伝』と比較して、「『山月記』の主題とは何か。」について考える。 ・各グループで自分の考えを共有し合い、共有後、再度「『山月記』の主題とは何か」について、自身の見解をまとめる。		○	○	・李徴が虎になった理由として本文中に書かれている内容と『人虎伝』の内容を比較しながら、「『山月記』の主題とは何か」について考えている。 【b】（観察、ワークシート） ・各グループにおいて自分たちの考えを共有するなかで、他者の考えを自分なりに分析し、『山月記』の主題について自身の見解を述べようとしている。 【c】（観察、ワークシート）
第 8 時	・第六段を読解する。 ・最後の一文「虎は、既に白く光りを失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、もとの叢に躍り入って、再びその姿を見なかった。」という一文がもつ表現の効果について考える。		●		・物語の最後の一文がもつ意味について考えている。 【b】（観察、ワークシート）

第9時	・今までの学習を振り返りながら、「月」が描写されている部分の表現の効果について考え、「中島敦は、なぜこの物語に『山月記』というタイトルをつけたのか」ということについて考える。 ・李徴と袁慆のその後について考え、物語の続きを考える。		○	○	・本文中の「月」が描写されている部分に着目し、それぞれの表現の効果の違いを分析したうえで、自身の見解を述べようとしている。 【b】（観察、ワークシート） ・李徴と袁慆のその後について考え、自身の言葉で表現している。 【c】（観察、ワークシート）
-----	--	--	---	---	---

※知識・技能の総括的評価については、定期考査にて行う。

12. 本時（第7時）の展開

（1）本時の目標

『山月記』と典拠である『人虎伝』を比較し、作者は『山月記』を通して読者に何を伝えたいのかを考える。

（2）本時の評価規準

- ・李徴が虎になった理由として本文中に書かれている内容と『人虎伝』の内容を比較しながら、「『山月記』の主題とは何か」について考えている。【b】
- ・各グループにおいて自分たちの考えを共有するなかで、他者の考えを自分なりに分析したうえで、『山月記』の主題について自身の見解を述べようとしている。【c】

（3）本時の準備物

・教科書 ・ノート ・ワークシート

（4）本時の学習過程

時間	学習内容	生徒の学習活動	教員の働きかけや生徒に投げかける問い	予想される生徒の姿	評価規準 (評価方法等)
導入 10分	・前時の復習	・第五段前半の内容を復習する。 ・前時で配付されたワークシートを確認する。 ・机をつけてペアになる。 ・前回までの内容を踏まえて、『山月記』の中で李徴が虎になった理由などについて、どのように書かれているかを確認し、ワークシートに記入する。	・本文の内容をまとめたイラストを見せながら、「李徴はどのような状況であるか。」、「李徴はどのような詩を詠んだのか。」などの問いを投げかけ、物語の展開を思い出させる。 ・「『臆病な自尊心』と『尊大な羞恥心』という2つの言葉にはそれぞれどのような意味があるか。」という問いを投げかける。 ・「この2つの言葉を見たときに、何か気付くことはないか。」という問いを投げかける。	・本文の内容をなかなか思い出すことができず、教科書を見返す。 ・教員からの質問に答えることで、物語がどのような展開であったかを思い出し始める。 ・教員の発問について考えようとする。 ・2つの言葉が意味することについて、自分の言葉で説明しようとする。 ・2つの言葉にもう一度着目する。 ・それぞれの言葉の組合せに違和感を覚えるが、なかなか説明することができない。	

			・ 2つの言葉を板書し、それぞれの言葉の組合せが矛盾しているということを確認する。	・ 本時までのワークシートの内容を確認しながら、それぞれの言葉の組合せが矛盾しているということを確認する。	
展開 35分	・ 本時の目標の確認 ・ 『人虎伝』の内容の把握 グループ活動 全体発表	・ ペアで協力して、『人虎伝』の内容を理解する。 ・ 『人虎伝』の中で李徴が虎になった理由がどのように書かれているのかを考え、ワークシートに記入する。 ・ 『人虎伝』と『山月記』の内容を比較して気付いたことをワークシートの「自分の考え」の欄に記入する。 ・ 自分の考えを記入した後、ペアどうしでグループになり、意見を交換し合う。 ・ 指名されたグループは、自分たちのグループで出た意見を発表する。	・ 典拠である『人虎伝』と『山月記』を比較して、『人虎伝』と異なる部分に作者の意図が隠されているということを説明する。 ・ 「作者が『山月記』に込めた意図は何か。」という問いを投げかける。 ・ 「『人虎伝』の中で李徴が虎になった理由はどのように書かれているか」という問いを投げかける。 ・ 机間指導を行い、生徒がつまずいている部分を把握し、どのようなことに着目すればいいかなどのヒントを出す。 ・ 発表したグループの意見をまとめる。 ・ 『山月記』では、李徴の内面がくわしく書かれていることを確認する。	・ 教員の発問について考えるが、なかなか自分の考えを深めていくことができない。 ・ どのようなことに着目すればよいか、ポイントを理解し、自分の考えを深めるようになってくる。 ・ 近くの生徒どうしで意見を交換し合う。 ・ 生徒が自身の見解を述べようとする。 ・ なかなか自身の見解を述べることができない。 ・ 自分の考えを箇条書きで少しずつ書き出し始め、それらを一文にまとめようとする。 ・ グループで出たそれぞれの意見を聞き、メモをとる。 ・ 互いに質問をし合う。 ・ 発表を聞き、メモをとる。	・ 李徴が虎になった理由として本文中に書かれている内容と『人虎伝』の内容を比較しながら、「『山月記』の主題とは何か」について考えている。 【b】（観察、ワークシート）

まとめ 10分	・学習の振り返り	・Google フォームで配信されている「振り返りシート」に記入する。	・『山月記』は『人虎伝』と違い、李徴の内面が虎になった理由とされており、そこに作者の意図が隠されているということを説明する。 ・振り返りシートにおいて、「作者が『人虎伝』にこのような変更を加えたのは、読者に何を伝えなかったからか。」という問いを投げかける。	・問いについて、考えようとする。	・各グループにおいて自分たちの考えを共有するなかで、他者の考えを自分なりに分析したうえで、『山月記』の主題について自身の見解を述べようとしている。 【c】(Google フォーム)
------------	--	---	---	--	---

(5) 観点別学習状況の評価の判断基準の設定（本時に総括的評価が伴う場合）

判断基準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）と判断する生徒に対する指導のてだて
評価規準			
【b】	李徴が虎になった理由について、『人虎伝』と『山月記』の内容を比較しながら、複数の根拠を持って自分の考えを述べている。	李徴が虎になった理由について、『人虎伝』と『山月記』の内容を比較しながら、根拠を持って自分の考えを述べている。	机間指導を行い、李徴が虎になった理由について自分の考えを持てるように、どのようなことに着目すべきかヒントを出す。
【c】	各グループの考えを共有するなかで、他者の考えに対して、自分がどのように考えたのかを明確にしながら、自身の見解を述べようとしている。	各グループの考えを共有するなかで、他者の考えを自分なりに分析したうえで、自身の見解を述べようとしている。	自分がどのようなことに気付いたのか、1つ1つ整理しながら箇条書きにし、その後、箇条書きにしたものを1つの文章にまとめるようにアドバイスする。